

もくじ

4年生のみんなへ

- いじめに負けない ……8
- 本をたくさん読みましょう ……10
- 食べ物の味をしっかりと味わいましょう ……12
- 神様にいのると勇気がわいてきます ……14
- 本を読むのがきらいです。どうしたら好きになれますか ……16
- トイレはなぜきれいにしなければいけないのですか ……18
- 車の中からドアを開ける時 ……20
- 学校を休んでいる子に電話をかけてみようよ ……22
- してはいけないことはしない ……24
- 人の役に立つのって気持ちいい ……26
- お金を生かして使いましょう ……28
- 友達にあいさつしても知らん顔された時 ……30
- いつも周りの人が喜ぶように ……32
- 家で一人での守番をしている時 ……34
- 「わたしの正しい」は「みんなの正しい」ではない ……36
- 自分の間ちがいに気付ける人になろう ……38
- 教室をきれいに使おうね ……40
- 分からないこと、知らないことはしつ問できる人になろう ……42
- 苦手なことを乗り越えよう ……44
- なぜなまけてはいけないの？ ……46
- ゆめに出合えたら ……48

5年生のみんなへ

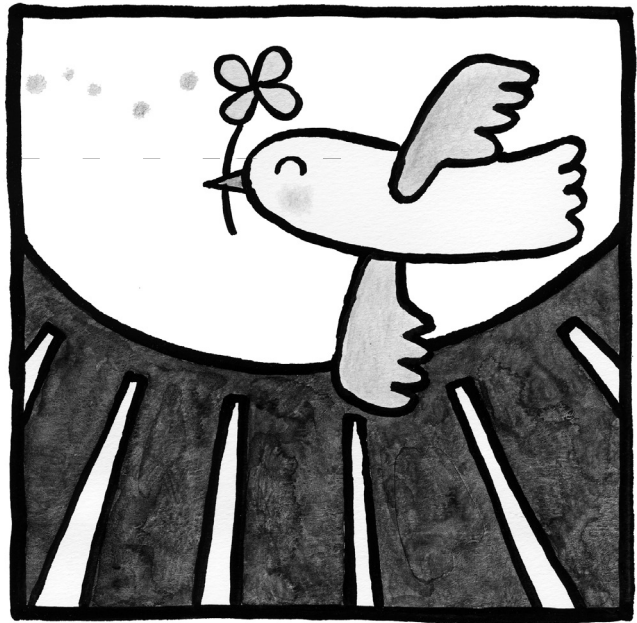
- あなたの食べ方はきれいですか ……52
- 教室にゴミが落ちていたら拾いましょう ……54
- ほしいものがあったらどうしたらいいかな ……56
- じゅ業中、手を挙げて答えていますか ……58
- 学校に来ない子にいのって手紙を書こう ……60
- ほしい物を買ってくれない時 ……62
- クラスみんなが先生の話に集中するために ……64
- 相手がいやがることを言わない、しない ……66
- 自分の住んでいる地いきをたんけんしよう ……68
- 物にもありがとうを伝えよう ……70
- クラスの人気者って？ ……72
- 一日一回は感しゃしよう ……74 — — — — —
- あなたの町の水道水ができるまで ……76
- なぜ好きなものばかり食べてはいけないの？ ……78
- 自分の気持ちを伝える努力をしよう ……80
- 自分の下着をあらってみよう ……82
- 自分がのけ者にされた時 ……84
- 一日の計画を立てよう ……86

もくじ

6年生のみんなへ

私たちは何のために生きているのだろう	……90
自分の体を愛し大切にしましょう	……92
持ってるものは全て使って、人の役に立ってみよう	……94
マナーや道とくを大切にしよう	……96
学ぶ心はあなたを幸せにします	……98
いのる心は平和な心です	……100
いいかげんな仕事はしないこと	……102
だまっていたのでは平和な社会にならないんだよ	……104
手は何のためにあるのでしょうか	……106
分からなくても手を挙げよう	……108
いせいにきょう味が出てきたら	……110
正しいことを行う勇気を持とう	……112
今日の天気になんかして	……114
しっかり宿題をすると世界が平和になります	……116
きれいな人とも仲良くなるには	……118
自分の力を100%出したいです	……120
気がいい心を持って	……122
国さい感覚を身に付けよう	……124
す直な人は頭が良くなります	……126
クラスの人が病気で欠席した時	……128
いつもクラス全体のことを考えよう	……130
あとがき	……132

4年生のみんなへ



いじめに負けない

クラスが新しくなったばかりのころは、みんな仲良しでした。わたしとチヅルちゃんは特に仲が良く、いつも一しょにいました。

変になったのは夏ごろです。男の子たちがチヅルちゃんのいやがることを言ったり、黒板に悪口を書いたりするようになりました。だんだんとわたしもチヅルちゃんと遊ばなくなってしまいました。

後になって聞いたことですが、チヅルちゃんは、お母さんにそのことを相談したそうです。すると、「いじめる子たちの幸せを神様にいのりましょう」と言われたそうです。次の日から二人は、毎朝いのりました。

それからチヅルちゃんは、変なことを言われても、いじめられたりしても、悲しまなくなりました。今までとはちがって、はらも立てなくなりました。

わたしはそんなチヅルちゃんを見ていて「えらいなー」と思いました。だから、思い切ってあやまることにしました。「今まで、ごめんね」と言うと、チヅルちゃんは「いいよ。また仲良くしてね」と笑ってくれました。



いじめに負けない子に育てる

いじめる子、というのは悲しいものです。そういう性格に育っている、ということを考えると、それはかわいそうなことですね。ぜひ、お子さんと一緒にその子たちの幸せを祈ってください。すると、イジメを通して、いじめた方もいじめられた方も、何かを学んで成長することができます。

わが子がいじめられた時、学校が悪い、担任が悪い、いじめっ子の親が悪いとか、他の人の不足を思いが

ちですが、「不足に思えるようなことがある時は、自分のやり方や考え方の足りないところを発見し、創意工夫して暮らしましょう」とPLで教えられていることを、チヅルちゃんのお母さんは実行されたんですね。

イジメを受けるということを、お母さんもお子さんも、一回り大きく成長するチャンスに変えてしまわれたのです。

本をたくさん読みましょう

「本」という字は、「木」の下の方にマークがついていて、木の根っこという意味があります。りっぱな根がある木は、強い風がふいてもたおれないし、土の中の水や栄養をすい取って大きくなっていきます。

本をたくさん読むことによって、いろいろな考え方や生き方を知ることができるのです。それは、あなたが大きく強くなっていくための根になってくれるのです。

そしたら、もし、あなたにこまったことがあっても、あの本の物語の人のようにわたしも（ぼくも）負けないぞ、と自分をはげますことができます。本を読むって、自分をおうえんしてくれる友達がふえることになるんですね。

本を読もうね。面白い世界がいっぱい書いてありますよ。そして、それが大人になるためにはとても大切なたから物になるのです。

情操を育て、考える力をつける

お子さんに本を読むことを勧め
おてあげてください。学校の図書館から借りてくるのもいいですが、まずはご自分でお子さんと一緒に本屋さんで探してみるのがいいですね。

私は子どもの情操を育てるには本が最適だと思います。演劇などもいいですね。どちらも子どもに考える力がつくと思います。

子どもには本が読みたくて仕方ない時期というものがあると思います。そんな時期は、家計が許す限り本を与えてあげてください。

恥ずかしい話ですが、私は本を読まない子どもでした。大学生になって、あまりに本を読んでいない自分が恥ずかしくなり、慌てて乱読をしたのです。児童書から歴史小説、心理学の本まで読みました。極端な読書でしたが、やはり本を読んでよかったと今思えるのです。物事の考えの幅が広がります。人生の参考になります。

今の時期は、まだ親の影響は大きいと思います。お子さんに本を読むことの楽しさを伝えてください。

食べ物の味を しっかり味わいましょう

食べ物には二通りの食べ方があるって、聞いたことがありますか？
一つは、味付けの味で食べるという方法。ソースやこしょう、ケ
チャップの味、つまり調味料の味ですね。

もう一つは、それぞれの食べ物が持つ本当の味を味わう食べ方です。
大根だったら大根、お米はお米、こんにゃくはこんにゃくの味がし
ますから、それをよーく味わって食べる方法です。

やってみたらすぐに分かりますよ。

本当の味を味わうには、よくかんで食べるのがコツです。毎日食
べているお米も、よーくかんで食べると少しあまい味がしてきます。
そして、「ああ、これがお米の味なんだなあ」と分かります。

そういう食べ方のできる人は、食べ物の好ききらいがだんだんと
へっていきます。そして、何を食べてもおいしい！と感じられる人にな
るでしょう。それは、いろんな人と仲良くできることにもつながっ
ていくんだよ。

苦手な挑戦させ、実力のある子に

苦手な食べ物は嘔^かむのも嫌で、
苦すぐに飲み込んでしまいたくなるものですが、よく嘔んで食べるようにすると不思議と味が分かり、
そうでもなくなります。――

「よーし！ 今日こそはこの味を味わうぞ」と決めてかかれば、今までとは違った味がするはずです。

人との関係も似ていて、対立する意見を認めることはなかなか容易ではありません。そこですぐに否定すると、それ以上の発展は望めません。「キミが悪い！」「いや、悪いのはそっちの方だ！」の繰り返しにすらなるでしょう。

どういう気持ちで言っているのか、なぜそんな意見を持つようになったのか。ここのところを味わうようにすれば、対立する意見に耳を貸すことが苦でなくなります。

苦手な食べ物に挑戦するのは、こういう理解力、包容力、忍耐力を養うことにつながるのです。

人は他人から認められると嬉しいものです。たとえ違った意見を言う人がいても、一旦はその意見を認めていく。この生き方ができると、苦手な人や物事が次第に減っていきます。それが家庭なら、素直で実力のある子どもが育つのです。